

# 平池

(ひらいけ)



全景



## ため池の概要

□ため池の所在地  
和歌山県紀の川市

□ため池の特徴

平池は、和歌山県最大級のため池で、その水は、紀の川市貴志川町約38haの水田で使用され、約100戸の農業の礎となっています。

水辺にはヒメガマ、オニバス、イチョウウキゴケ等の県レッドデータブックに記載された絶滅危惧種も数多く生息しています。また県下有数の野鳥の生息地としても知られており、時には美しい白鳥が羽を休める姿を目にすることもあります。

池周辺の緑豊かな環境には、遊歩道や広場が整備され、「平池緑地公園」として地域コミュニティの場となっています。1999年にはその美しい景観が「和歌山県朝日夕日百選」にも選ばれています。

また、貴志川流域は「紀州の飛鳥」と呼ばれ、平池内にある平池古墳群は市指定文化財として保護されています。

## 関連情報

和歌山県ホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130200/03/sangyou/kankouguide/hiraike/hiraike.html>

# 亀池

(かめいけ)

## ため池の概要

### □ため池の所在地

和歌山県海南市

### □ため池の特徴

亀池は、紀州藩の命により、紀州流土木工法の始祖といわれる海南市出身の井沢弥惣兵衛翁が会所役人御頭となって設計し、1710年、連日600余人(延べ55,000人)を動員し、90日間で完成したと伝えられています。

築造時、亀の川の改修と併せて約4kmの導水路も建設され、現在も143haの農地を潤しています。

周辺には約4kmの遊歩道があり、2,000本の桜が植えられ、4月上旬にはその桜が咲き誇りさくらまつりが開催されます。

池の中には中島があり、紀州徳川家の別邸・双青閣が移築され多目的広場も整備されています。

水と緑の景観がすばらしく、四季を通して憩いの場所として市民に親しまれています。



全景



## 関連情報

海南市観光協会ホームページ

<http://www.kainankanko.com/wanpaku/w-kameike.html>

# 桜池

(さくらいけ)



全景



## ため池の概要

### □ため池の所在地

和歌山県紀の川市

### □ため池の特徴

桜池は、江戸時代初期1650年に工事に着手し1652年に完成した県下最大級のため池で、紀州藩主徳川頼宣自ら工事の監督にあたり、延べ42万人の人手を要して完成させたと言われていています。現在も263haの田畑を潤しています。

ため池ができる前は、松井川の各所に設けられた井堰から取水し、各村々の持池に溜めて利用されていましたが、乏しい水の争奪を巡り激しい争いがあったことが記録されています。これを緩和し、より広域的に水田開発することを目指してため池が造られ、関係38か村への分水は、「分水定書」によって行われていたと記録されています。

その名の通り、桜の名所として有名で、多くの観光客が訪れています。また、水辺には、県内では非常に珍しいヌマハリイを見ることができます。

## 関連情報

# 内芝池

(ウチシバイケ)



全景

内芝池



## ため池の概要

### □ため池の所在地

和歌山県有田郡有田川町

### □ため池の特徴

内芝池の水田地帯には縄文時代の葛龍遺跡があり、古くから池が存在していたと考えられていますが、文献として残っているのは、1640年前後に、棚田百選「あらぎ島」を開拓した大庄屋笠松左太夫が、地域の農家を救うため内芝池を改修したとされています。

改修のおかげで、12戸の百姓が帰農することができたとされており、池は現在でも満々と水を湛えて、水田面積10.5haの農地が恩恵を受けています。

最近では、農閑期に池の水を抜き、地元の小学生がため池での生物調査を行っており、集落周辺での農業・農村環境学習も行われています。

地元農家がため池や水路の日々の清掃を行っているほか、地元企業と共同して集落で堤体の草刈りなどを行っています。

## 関連情報

# 畑谷池

(はたけたにいけ)



全景



五輪塔(石碑)

## ため池の概要

### □ため池の所在地

和歌山県伊都郡かつらぎ町

### □ため池の特徴

和歌山県における農業土木技術者の草分け的存在であり、安土桃山時代に豊臣秀吉から絶大な信頼を受けていた高野山の應其上人が改修を行った池です。

畑谷池を含めて、当時上人が造ったため池は、現在に至るまで農業用として使用され、地域農業には欠かせない存在となっています。

池の中島にある五輪塔(石碑)は、碑の正面に「興山上人」の四字が刻まれ、左側に「天正17年7月」の文字が読み取れます。また、この石碑は平成14年3月に町の重要有形文化財に指定されました。

毎年7月(第1土曜日)に應其上人祭を開催しています。

## 関連情報

# 大池

(おおいけ)



全景



## ため池の概要

□ため池の所在地  
和歌山県和歌山市

### □ため池の特徴

覚鑿上人によって平安時代後期(約900年前)に造られたと伝えられています。

地形を生かし、短い堤で効率よく大量の水を貯え、山東地区の約100haの田畑を潤しています。

桜の名所でもあり、人々の憩いの場ともなっており、4月の第1土曜日には根来寺より御礼をもらい、覚鑿堂においても安全祈願を行っています。

## 関連情報

# 鴨尽池（釜尽池）

（かまづくしいけ）



全景



## ため池の概要

### □ため池の所在地

和歌山県日高郡日高川町

### □ため池の特徴

古くからの水田地帯である江川沿いは、江戸時代前期に幕府の推奨した新田開発を進め、その間、水源としてため池を8ヶ所造ったという記録が残っており、そのひとつが鴨尽池です。（1664年築造）

池は、現在でも15haの水田を潤しています。

鴨尽池、別名釜尽池の名前には、次のような言い伝えがあります。

『夏期の水不足に大変苦労し、支流の猪内川を堰き止めて池を建設しようとしたところ、大洪水により完成間近の堤が跡形もなく流されてしまいました。』

池の建設を提案したお爺さんが次は自らが人柱となって池を造るよう懇願しましたが、村人たちは「命は尊いもの、その命の次に大切なもの、それは命を支える釜だということで、家の釜を埋めよう」と村中の釜を出し尽くして立派な池を完成させました。』

## 関連情報